

令和 6 年度

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600401		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	あったかいごグループホーム大堤 2階		
所在地	〒024-0054 北上市大堤東2丁目1-32		
自己評価作成日	令和6年10月20日	評価結果市町村受理日	令和6年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhvu](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・常に利用者様の心に寄り添えるあったかい介護、そのらしさを引き出せる合った介護を目指して、職員一同が利用者様のライフワークとニーズを把握し、穏やかで安全に生活できるサービスの提供をの提供を心掛けて日々の業務に努めております。  
 ・施設という場所ではあっても家にいるときと同じように利用者様がくつろげる空間であることを目指して、趣味の継続や気分転換を図る為の散歩やドライブ、馴染みの場所へ出掛けたり、レクや季節ごとの行事を行い利用者様に楽しんで頂けるように努めております。  
 ・訪問診療や訪問看護ステーションと連携を図っており、利用者様の体調変化にも柔軟に対応する事が出来ます。また、終末期における看取り対応も実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、閑静な住宅やアパートが立ち並ぶ相去地区に立地し、2階建て1階と2階の2ユニットで構成されている。法人全グループホーム共通の理念「共に和み、共に生きる」の下、事業所では、独自の標語(スローガン)も定めて、利用者が安心して過ごして頂けるよう、サービスの提供を通じて理念の実践に努めている。また、マスコットキャラが醸し出す優しいイメージのとおり、利用者が住み慣れた地域の中で穏やかに過ごすことができるような雰囲気作りを心がけており、地域の寄せる期待やニーズも高い。特に事業所では、訪問診療や訪問看護、訪問歯科との連携協力を図りながら利用者の健康管理に力を入れ、体調不良の早期発見・早期治療に努めており、利用者、家族からも高い信頼感と安心感を持って受け止められている。利用者・家族の希望に沿って終末期における看取りにも取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み」「共に生きる」という事業所理念を作成している。職員一人ひとりが常にそのひとらしさを考え利用者の立場になり行動し、利用者・家族から信頼される態度と姿勢を常に意識して行動をしている。また、職員で考えた標語を選出し毎月GH大堤独自の標語として朝礼時に唱和して意識を高めている。	法人では、各事業所共通の理念と経営理念の下で、これらの理念を実践するための四つの目指すべき方針を定めている。さらに本事業所では、毎月職員の提案による独自の標語(スローガン)を定め、事務室やホールに掲示し、毎週両ユニット合同の朝礼の場で唱和している。これらを通じ職員は、理念を意識して日々のサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の神社のお神輿巡行があり駐車場で演目の鬼剣舞見て頂いた。また敬老会では感染予防を徹底した上でボランティアの方を呼び歌や踊りをを披露して頂き余興を楽しんで頂いた。	あったかいごグループの各事業所とも、自治会活動には参加していない。運営推進会議のメンバーである自治会区長が、市の広報等を毎回届けてくれ、区長には、さらに事業所広報(約30部)を近隣に配っていただいている。また、地元の相去地区センターで開催される文化祭には、利用者の作品を出展している。このほか近隣の方から、時々野菜の差し入れがある。ボランティアの方々には、敬老会で歌や踊りを披露していただいているほか、クリスマス会にはハンドベルを予定している。神社のお神輿巡行の際には、施設の駐車場で鬼剣舞を周辺住民の方々と一緒に観て楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に事業所で広報を作成し、事業所の取り組み等を掲載して、地域の広報誌と一緒に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度実施し、事業所報告、活動報告等を行いご意見、要望をいただき議事録を作成している。議事録は職員間で回覧し意見や要望に応えることができるよう努めている。	運営推進会議は、市長寿社会課職員(地域包括支援センター職員との1年交替)、自治会区長、民生委員、利用者家族で構成され、2か月毎に開催されている。家族については、その都度希望される方々に参加していただいている。区長の参加はなかなか難しい状況にあるが、日頃から広報を配っていただいたり、文化祭への作品出展のお誘いをいただくなど、大変お世話になっている。会議では、主に利用者の病状や生活状況、コロナ感染時の対応等について意見交換している。以前、夜間の火災や災害時における避難対応を心配する委員からの声を受け、近隣の協力を得るための対応を講じたこともあった。	会議の構成員のうち、外部委員については、必要に応じて識者、専門家等を特別委員等として招くことにより議論の対象を広げ、会議のさらなる活性化が図られることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の場で事業所の実情やケアサービスの取り組みを報告したり、市からの情報を提供して頂いている。それ以外に疑問点が出たときはその都度確認を取り連携に努めている。	市担当課職員が運営推進会議の委員となっているほか、担当課職員とは、事業運営や認定等に関して疑問や課題がある都度、実直に相談に乗ってもらい、助言や指導をいただける関係になっている。また、成年後見制度を利用している利用者の関係で、市関係課とのやり取りがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度、職員会議にて身体拘束廃止に関する指針の読み合わせを行い、身体拘束についての知識を深める機会をもうけている。また、年に2回身体拘束について職員が講師として独自にまとめた内容で勉強会を行っている。	3カ月に1回、年4回身体拘束適正化会議を開催しており、このうちの2回は勉強会を兼ねた研修も実施している。会議では、法人共通の身体拘束に関する指針の読み合わせを行って注意喚起に努めており、研修では、職員が持ち回りで講師となりスピーチロック等の身体拘束に関する理解を深め、意識を高め合っている。地域包括支援センター主催による研修にも参加し、様々な事例を学んでいる。事業所の玄関は夜間施錠のみで、日中、利用者が外出しようとする素振りが見られた際には、安全に配慮してさりげなく寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	年2回虐待防止の勉強会を実施。資料の読み合わせをしたり、知識を深め虐待を見過ごされることのないよう徹底した注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で権利擁護についての小冊子を購入し、職員に読んでもらっている。その小冊子を使用している研修は行っていないので、今後は研修を開催してより理解を深めて権利擁護についての知識を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には概ね1時間ほどの時間を頂き同意に努めている。疑問点等についてはその都度説明をしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防のため面会は30分以内でお願いをしている。その時に意見や要望又は相談をされた時にはその都度受けている。居宅サービス計画書を作成しサービスについて利用者・家族からの意見や要望を確認したうえで計画をたてている。	近況報告を、毎月の利用料金請求時等に併せて、家族に郵送している。その際に意見や要望等を記入して返送していただくようお願いしている。遠隔地の方もおり、面会に訪れる家族は多いとは言えないが、訪れた際には、その都度意見や要望等を伺うようにしている。また最近は、電話で聞く機会も多くなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の場以外に職員会議、カンファレンスの場で職員間で意見交換し早期対応が出来るようにしている。それ以外に個人面談をして意見を聞ける場も持てるように努めている。	日々の業務のほか、主に定期的な職員会議やカンファレンスの際に、職員から意見や要望等を聞いている。運営に関する具体的な提案等があった場合には、職員間で共有を図り、必要に応じて運営に取り入れる等、早期の対応に努めている。このほか4月と11月の年2回、管理者と主任とで各職員との個別面談を行い要望等を聞く機会にもしている。最近では、職員から研修等の自己研鑽に関する要望があり、事業所として支援することとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を実施し、定期的に所長、主任が個人面談を行っている。日常業務以外にも、経験・能力を考慮した上で係・行事企画を行ってもらい各自が意欲とやりがいを持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修や事業所内の研修には、積極的に取り組み職員一人ひとりの今の力量や能力を把握したうえで意識を高めていける研修の場になるように務めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。またケアカフェ、ケアラボに参加。情報交換の場を持ちネットワークづくりの向上に努めた。県内の同一法人内で「ヒヤリハット委員会」を月1回開催、福祉部会を月1回行い、情報の共有を図りサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には、必ず本人にお会いし、直接話を聴く機会を設けている。また、可能な際には利用前に一度施設内の見学をしていただき施設の説明も行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談時には、出来る限り多くの時間をとり家族の要望や困っていること、入居後の不安な事に耳を傾け今後のよりよい関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のADLの状態や家族の介護力の問題など、多角的に考えいま必要な支援を適切に見極めサービスの利用に繋げていけるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共に過ごす場所、居心地のいい空間づくりに努め、本人のやりたいこと、やれることを一緒に考え一方通行的な介護にならない関係づくりをしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度近況報告を作成し、利用者の心身の状況を報告するとともにその月の行事の様子を写真に収めたのを一緒に添付している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防のため長時間の外出や外泊は控えていただいているが利用者の要望に合わせ、家族にも協力してもらい手紙や電話を利用した支援をしている。	家族付添いで外出する利用者があり、通院付添いのため月2回遠隔地(福島県)から訪れるご家族もいる。今は、日帰りによる外出がほとんどで外泊する利用者はいない。週1回の訪問看護、2月に1回の訪問理美容が入居後の利用者にとっての新たな馴染みの関係となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や嗜好に配慮した座席の配置をしたり、利用者同士のトラブルがないよう目配り気配りに努めトラブルが起きそうなときは間に入りトラブル防止に努め良い関係が保たれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、必要に応じ関係機関への情報提供等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に面談を実施し、これまでの生活歴を利用者 家族から聴き、入居後も日々の暮らしの様子やモニタリングを通じて一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	入居前には、これまでの暮らし方や交友関係、趣味趣向等について、利用者本人やご家族との面談を通じて把握しているほか、入居後においても、一人一人の思いや意向の把握に努めている。利用者のうち半数以上は意思疎通が可能であるが、困難な方は表情や仕草、日々のケアを通じ思いを汲み取るようにしている。また、汲み取ったことは記録し、申し送り等を通じて共有を図っている。「帰宅したい」という方には、よく話を聞きながら、気持ちが落ち着くまで寄り添うなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に利用者や家族から聞き取りをしたりシートに記入してもらい生活歴や生活環境を把握出来るようにしている。また、普段のコミュニケーションでもこれまでの暮らしや生き方を探り、職員間でも情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し毎月1回カンファレンスを実施し職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には本人や家族の意向、アセスメントを基に計画書を作成出来るように努めている。また定期的にモニタリングを行い、利用者の現状に合わせたサービス内容の変更を行っていけるようにしている。	計画の見直しは6ヵ月毎に行っている。モニタリングの結果を踏まえてカンファレンスの場で見直しについて話し合い、計画作成担当者である管理者が医師や訪問看護師からの意見や助言も考慮したうえで、計画案を作成している。計画書には、利用者本人や家族が希望、意向等を記載する欄があり、家族に説明をした上で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や業務日誌に記録し情報の共有を行っている。職員会議やカンファレンスの場でも意見やアイデアを出し合い、情報を共有したうえでサービスの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに関しては、コロナ禍で面会時間が制限されているが、その時にお伝えし対応している。面会が来れない方は電話で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に利用者・職員が共同で作った作品や個人の趣味の作品を出品し展示することでの楽しさや喜びを感じて頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際には、心身の状態について往診の前に「受診時連絡表」を作成し、まえて主治医に心身の状況を伝え、適切な医療を受られるように支援している。診察時には的確に状況を伝えることができるように努めている。	1階で利用者1名が家族の付添いでかかりつけ医に通院しているほかは、全員が訪問診療を受診している。心身の状態を記載した「受診時連絡票」等を作成のうえ、外来通院者には家族を通じて、訪問診療受診者については直接主治医に伝えている。各ユニットとも訪問診療は月2回、訪問看護は週1回来所している。必要に応じて歯科医師の訪問による受診も可能となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護にきていただき相談、助言を受けるとともに主治医への連絡・調整を行っている。訪問時以外にも、緊急時の相談や対応をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療機関に情報提供を行い円滑に入院生活が送れるよう協力をしている。入院中は情報交換の場をもち医療関係者との連携をとることに努め早期の退院に向けて協力しあえる関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、同意を得ている。必要時には、主治医・訪問看護師・御家族様・事業所が話し合うことを確認している。	「重度化対応に係る指針」に基づき終末期に対応している。ご家族の希望を受け、主治医や訪問看護師との連携を図りながら看取りにも取り組んでいる。職員は、系列の訪問看護ステーションによる看取りの勉強会に参加するなど、経験値を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「急変・緊急マニュアル」を作成し、定期的に見直しも行い全職員がすぐに取り出して確認できる場所に配置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。地震時の対応も協議し備えている。夜間に災害が起きた場合を想定した避難訓練も実施している。	ハザードマップで浸水想定区域や土砂災害警戒区域の指定はない。事業所では、年2回、6月、12月に火災を想定した日中・夜間想定避難訓練を実施し、夜間想定避難訓練は薄暮時間帯に行っている。また、年2回、3月、9月には、災害の発生を想定したBCP訓練を実施し、役割分担や実施手順等についての検証を行っている。このほか、非常集合訓練も行っている。備蓄品の自家発電機整備の補助金申請を行ったが、実現しなかった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄等プライバシーや羞恥心に配慮したケアを常に心掛けている。 また、原則丁寧語を意識し、利用者の尊厳を大事にした言葉かけを行い自尊心を損なわない対応に努めている。	利用者の尊厳を損なうことのないように、丁寧な言葉遣いと声掛けに努めている。居室に入室の際には、ノックして一呼吸したうえで入室するとともに、入浴時や排泄時等には、プライバシーの保護や羞恥心に配慮したケアに努めている。特に、失禁など排泄で失敗した場合には、小声でさりげなく対応するなどきめ細かな配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	第一に本人がどうしたいのかという思いを傾聴して本人の希望に重点を置いたうえで臨機応変に対応もできるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせたタイミングの起床時間や、食事の好みやおやつなどの希望を聞き出来る限りの対応に努めている。入浴も決まった曜日は設定しているが、気分によっては入浴日を変更して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容や季節に合った衣類の交換などご家族にも協力してもらいながらその日着たい服を選んでもらったり好みを聞く機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や行事食は必ず取り入れ、食事の前に話題に取り入れたり興味関心を引き出せるようにしている。準備は一緒に行えていないが食器拭きやテーブル拭きなど出来ることを一緒に行っている。	朝食と昼食は、業者(クックデリ)から配達された食材を調理提供し、夕食は、各ユニットで厨房係が献立を考えて調理している。夕食の食材は、職員が買出しに出掛けている。利用者が食べたいものを事前に調査し、季節に合わせた料理やおはぎ、クッキー、ホットケーキ等のおやつ、また、お誕生会にはケーキとプリンアラモード等を提供している。利用者には、おやつ作りや皮むき、食器拭き、テーブル拭き、下膳など出来ることを手伝ってもらっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は本人の状態に合わせた対応をし水分量も記録している。体重の変動にも気をつけて、医師や訪問看護師に相談し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、自分で行ってもらえない方には介助を行っている。また、義歯が合わなかったり口腔内の異常を発見した場合は訪問歯科に連絡して対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から、個々の排泄パターンを知りその方にあった時間で声掛けをしている。また、自分でトイレに行くが失敗のある方には自尊心を傷つけないよう配慮しながら交換している。	排泄チェック表により、利用者の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導、声掛けを行っている。自立している利用者が両ユニットで8名おり、また、7名の車イス利用者は本人の申し出で介助している。現在、布パンツは5名、おしめ1名、他はリハビリパンツを使用している。なお、ポータブルトイレを使用している方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分を提供し、記録を行い摂取量の把握に努めている。おやつ時は牛乳、週に3回はヨーグルトを提供したり必要に応じて訪問看護師に相談し医師を通して下剤の変更や調整もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	週間の予定は設定しているが、その日の体調や意思を確認し無理をさせず臨機応変に対応している。入浴を嫌がる利用者には職員を変えて声掛けしたり無理のない範囲で個人に合わせた対応を行っている。	週2回、午前中の中入浴を基本としているが、利用者の希望に沿って柔軟に対応している。車イスの方で浴槽を跨げない利用者は、シャワー浴としている。入浴を嫌がる人には、「体重測定しよう」など声掛けを工夫するなどして入浴に誘っている。端午の節句には柚子湯、冬至には菖蒲湯など季節のものも取り入れて楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操や散歩、作業を行い、生活リズムを整えて安眠できるよう配慮している。希望者には午睡もしていただいたり、ソファでくつろげるようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各居担を中心に、本人の服薬状況の把握や薬の在庫管理に努めている。誤薬や服薬もれがないように職員二人で声掛けを行い確認をしてから内服するように努めている。また体調や行動の変化があれば、受診の際に医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や洗濯たたみ、食器拭き等可能な範囲でお手伝いしていただいている。また、一日2回ラジオ体操を行い体を動かしてもらったり、歌を歌ったりゲーム等のレク活動を行い気分転換を図ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で頻度は多くはないが散歩、ドライブ等の外出の機会を設けて気分転換を図っている。	天気の良い日には、周辺を散歩したり、プランターでの家庭菜園やベンチに座っての日光浴等を楽しんでもらっている。また、花見や紅葉狩り等に花きセンターや錦秋湖、夏油高原、田んぼアートなど周辺ドライブにも出かけている。写真撮影や車中でアイスクリームを食べるなどして、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則お金の持ち込みは、ご遠慮していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時、希望時には施設の電話を利用して御家族様と会話していただいている。手紙等も本人にお渡し読んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう温度管理には配慮している。また季節ごとに装飾を替えてその季節を感じられるように工夫したりホールの壁には行事・ドライブで撮影した写真を掲示している。食事中は民謡や歌謡曲、童謡等の音楽を流している。	ホールは、1階、2階とも南向きの引き戸から日差しが差し込み、明るく心地好い環境となっている。エアコンやパネルヒーターで適切な温度管理がなされ、空間除菌脱臭機(ジアイーノ)により、快適に過ごせるように配慮されている。各階ともテーブルやソファ、テレビが設置され、1階の壁には利用者による共同作品や季節に合わせた装飾、2階の壁にも季節に合わせた装飾や行事、ドライブ等で撮影した写真等が掲示されている。なお、1階玄関には各職員の写真と氏名を記した自己紹介票が貼り付けされている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席やテーブルの配置を配慮し、利用者同士の相性等を尊重して対応している。ソファ一部分のスペースを広く取りベランダからの景色を楽しんで頂き気分転換も図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へはご自宅で使用していたものを持ち込んでもらったり、家族や本人が希望するものを持ち込んでもらっている。また家族の写真を飾ったり好きな装飾をすることでリラックスした雰囲気でも過ごしてもらえる工夫もしている。	居室には、それぞれ花の名前が付けられている。居室内は、電動ベッド、洗面台、クローゼット、エアコン、パネルヒーターが備え付けられており、利用者は、使い慣れた布団やテレビ、ラジオ、時計、衣装ケース等を持ち込み、家族写真を飾るなどして居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置して安全に移動ができるよう配慮している。また各居室に表札を設け、居室がわかるように工夫している。		